

平成26年度行政評価委員会 議事要旨

会議名	第2回葛飾区行政評価委員会
開催日時	平成26年7月15日(火) 午後1時から3時
開催場所	葛飾区役所新館5階 庁議室
出席者	【委員7人】 大石会長、江川委員、大山委員、柴田委員、佐々木委員、西江委員、三宅委員 【区側7人】 環境課(環境課長、環境課職員2人) 事務局(経営改革担当課長、事務局職員3人)

会議概要

1 開会

(事務局より資料の確認、「協働推進ガイドライン」についての説明を行った)

2 事務事業の概要説明及びヒアリング

・環境月間普及啓発

(環境課より事業の概要について説明した後、質疑応答)

(1) 基本情報

A委員 魅力のある、大変わかりやすい事業だと思う。ポスターコンクールの審査基準を教えてください。また、活動内容に記載のある副読本が学校で使われているのか。さらに、使われているとしたらどのように活用されているのか。

環境課 ポスターコンクールの審査委員長には小中学校の美術の教員を招いており、その他委員は区の幹部職員等で構成されている。審査基準については、絵の技量だけではなく、区民の方にアピールできるものを合議で選んでいる。副読本は、現場の教員の協力を得て作成している。活用のされ方については、アンケート調査を行っているが、なかなか回答が返ってこないため実態は把握できていない。今年度から調査の仕方を変え、各学校がどのように活用しているか把握したい。

A委員 アンケートを行う際は教育委員会と連携をとって行わないと、なかなか返答は来ないと思う。また、ポスターは連続性が必要だと考える。

賞を取って終わりということではなく、ポスターを描いた子たちがどのように育っていくかということも重要だと考える。

B委員 環境緑化フェアは日曜日での開催か。

環境課 その通りである。

B委員 学校の授業の一環として見学させるということは考えていないのか。

環境課 産業フェアにおいては金曜日に区内小中学校に送迎バスを手配し、授業の一環として見学してもらうという取組みを行っている。本事業においても、確かに複数日開催としてはどうかというご意見も頂くことはあるため、参加団体の負担の問題もあるが、ご意見を聞きながら進めていきたい。

B委員 ポスターを地区センターで展示しているときに、学校へのPRはしているのか。

環境課 PRは行っているが、現実的には入選者以外はなかなか見に来ないという現状がある。

B委員 環境の問題は非常に重要である。子どもたちのために環境教育を推進していただきたい。

会長 その点は先ほどご意見のあった教育委員会との連携の部分と関わってくるので、提言に入れていきたい。

C委員 環境副読本は何部印刷しているのか。

環境課 対象学年の全生徒分である。小学校は4年生、中学校は1年生を対象として配っている。

C委員 図書館には置いてあるのか。

環境課 置いてある。

D委員 地区センターには置いてあるのか。

環境課 置いていない。

D委員 受賞したポスターを印刷して、各自治町会に張り出してもらうということは行っていないのか。

環境課 コストもかかることなので、行っていない。

(2) 実績情報

C委員 各イベントの入場者数のカウントはどう行っているのか。

環境課 主催者発表の数字である。カウントは取っていないが、各ブースがアンケートを取った枚数等を元に算出している。

D委員 産業フェアは入り口でチラシを配ってカウントしているのではないかと思うが、環境緑化フェアではチラシや会場図面は用意しているのか。

- 環境課 入り口での配布はしていないが、スタンプラリーも行っているので会場の図面は用意している。
- D委員 ある程度正確な人数を把握するために、入り口でのチラシ等の配布も1つの手であると考ええる。
- E委員 同じ区内でも、会場の近い遠いがあり、ギャップが生じる。水元には地区センターもないのでポスターコンクールのポスターを見ることもない。そういった部分に配慮をして事業を行ってもらえれば、全区的な参加が望めるのではないか。
- D委員 ごみ減量・清掃フェアでアンケートを取っているとのことだが、地域の偏り等の結果は分析されているのか。
- 事務局 リサイクル清掃課での事業のため、確認して次回までにご用意したい。
- D委員 気になるのは、近所の人がどれくらいいて、遠方から来る人がどれくらいいるのかということである。似たような事業を別の部署で行っているということについては、どうしてなのか疑問である。同じ部署で行った方が効率がいいのではないか。
- E委員 ごみ減量・清掃フェアには3,500人ほどが来場している。
- 事務局 感触としては、地元の方がほとんどという話を聞いている。
- B委員 このアンケートは、ごみ減量・清掃フェアのみで配っているものではなく、別の場所でも行っているものか。別の場所でも同様のアンケートを見たことがある。
- 事務局 別の場所で行っているのは、別のキャンペーンのアンケートである。
- D委員 環境緑化フェアのクイズの内容は毎年変えているのか。
- 環境課 毎年同じ問題もあるが、変えている。
- D委員 正答率はどうなのか。また、会場を回れば正答がわかるものなのか。
- 環境課 花や緑について知ってもらい関心を持つきっかけとすることを目的としているので、正答率については集計していない。会場を回ればわかるものではないが、職員と会話しながら答えてもらうことで知識を深めてもらいたいと考えている。
- A委員 どの区にも言えることだが、類似事業について同じ部で行っている事業なのに、連携が薄い。
- 会長 その点は我々の提言の中に入れていきたい。

(3) 方向性

- A委員 魅力あるイベントにしていきたいということだが、この「魅力」について所管課では分析しているのか。また、葛飾区地球温暖化対策地

域協議会とはどういうものなのか。

環境課 「魅力」については、参加団体のみなさんと一緒に検討していきたいと考えているため、現時点で区としての考えは持っていない。また、葛飾区地球温暖化対策地域協議会についてはもともと法律があり、義務ではないが設置することが望ましいとされていた。東京 23 区でもほとんど設置されていないものである。環境施策を区民と共に考えていくために設置したものだが、現在の取組みは多くはない。しかしながら、協力して打ち水を行うイベントや、学校へ行き環境学習を行うなどの取組みが増えてきたので、今後も広げていきたいと考えている。

A 委員 遠慮されたのだと思うが、「魅力」については区としての考えがないと困るので、しっかりと区が方向性を示したうえで各団体と協議されることを要望したい。

F 委員 私は生ごみリサイクルネットワークという団体に参加しているが、そうした具体的な取組みを区として紹介していく考えはないか。生ごみの処理の仕方は難しいため、処理の仕方について 15 年ほど前に区に意見を出したが、取り合ってもらえなかった。また、水元の清掃工場は、白い煙を消すために相当なコストをかけているという話を聞いた。本事業のような PR も必要だが、具体的な事業の推進にもっと取り組み、PR してもらいたい。

B 委員 文京区では生ごみから堆肥を作る取組みを行っている。区でも花いっぱい運動などを行っているので、そちらと関連していくと良いのではないか。

E 委員 清掃工場の白い煙は蒸気であり、コストもそんなにかかっていないはずである。また、生ごみの堆肥を活用する場合には、虫がわからないように農薬を使用するなど手間がかかる。

環境課 本事業で行っているのは環境問題、公害の問題、緑化、ごみ、リサイクル等について、環境部を挙げて啓発を行っているものである。啓発のあり方については本事業での議論ができるが、個々の事業の話になってしまうと、リサイクル清掃課や清掃事務所も入ってくる話なので、明確な回答は難しい。

D 委員 葛飾区地球温暖化対策地域協議会、葛飾区生物多様性推進協議会の構成メンバーと活動内容を教えてもらいたい。

環境課 葛飾区地球温暖化対策地域協議会については、環境緑化フェアに出展している環境関連の製品を作っている企業や、立候補された環境問題に詳しい区民の方、東京電力、東京ガスなどである。葛飾区生物多様性推進協議会については、環境緑化フェアに出展しているイネ科花

粉症を学習するグループ、NPO法人水元ネイチャープロジェクトなどの生物関係の団体が加入しているほか、区が委嘱している緑化推進委員、自然環境レポーター、学校の教員等で組織している。一覧表にしたものを次回ご用意したい。

D委員 会長は設置しているのか。

環境課 民間の方に会長をお願いしている。

E委員 外国ではガーデニングのコンクールを行っており、それも緑化運動の一つと考える。競い合うことで、相乗効果も期待できる。子どもがポスターを描くのも素晴らしいことだが、大人にもできる取組みが必要ではないか。高齢者が街路樹や草花の整備をするのに助成金を出すことも一つだと考える。

B委員 すでに行っていることである。

E委員 行っているが、それは一部であって浸透していないのではないか。

D委員 私は、環境緑化フェアもごみ減量清掃フェアも知らなかった。やっていることはやっているが、PRに問題があるのではないか。周知する努力をしてもらいたい。

F委員 広報かつしかに掲載されている。

D委員 広報紙を読んでいる人がどれだけいるのかということである。

F委員 大勢いると思う。

D委員 私は広報紙を読んでいない。そういう区民がいるということも考えてもらいたい。また、ホームページを見ればわかるというが、高齢者はホームページなど見ない。区民が広報を読んでいるかのアンケートがあれば結果が見たい。

A委員 行政評価委員として非常に次元が低い話である。

D委員 一般区民の感覚として、行政は区民に知らせていると言っているが、区民にそれが伝わっているかを調べないのは不作為ではないか。

A委員 それでは、効果的な周知方法とはどのようなものがあるのか。

D委員 例えば、区のハザードマップの話をする、どこに避難するかということは記載されているが、個別宅に訪問し、「あちらの川が決壊したらこちらの小学校に逃げなさい」と伝えてくれれば完璧である。

B委員 防災課でやっていることではないか。

D委員 ハザードマップには、「この地域の方は、墨田区の安全な場所に避難してください」と書いてある。それだけでは、どこに避難したらいいのかわからない。

A委員 おっしゃる意味は分かる。しかし、本事業の周知とは関係がない。興味の有無にかかわらず、本事業については広報でしっかりと周知し

ている。

B委員 ポスターも貼ってある。

会長 今議論になっているように、最後は、区民にどう伝えていくかというところに行きつく。区の努力も必要だが、我々区民の努力も必要であり、その架け橋が広報紙である。

E委員 例えば町会を通して周知してもらうなど、組織や団体を通してPRしていくことは重要であると考える。

F委員 回覧板による周知も効果的ではないか。

(4) コスト内訳

会長 事務分担の見直しによる人件費の変動とあるが、どういうことなのか。また、このような良い取組みのコストが、この程度で収まるものなのか。

環境課 人件費については、課で持っている事業の数が変動することでも変わってくる。今回は、庶務係で職員が行っていた仕事の一部を人材派遣に振り分けたため、他の事業も含めたトータルで見れば大きな差はないが、見た目では人件費が増えたようになっている。また、事業費については、環境緑化フェアは出展者の自己負担で出てもらっているため、区が負担するコストはブースの設営程度である。事業費の負担の仕方については、協働して魅力あるイベントにしていくために、行政評価委員会においても効果的なPR方法など行っていくべき取組みについて提言をいただけたと思うので、コストは増加すると予想している。

3 その他

(事務局より事務連絡)

4 閉会